

Q8.高台での暮らしで、つながりのあるコミュニティをつくりたい。そのために、各高台に移転する人同士で話し合いたいので、町に協力してもらいたい。

- ・昔からの部落の人と仲良くやりたいし、仮設の集落で仲良くなった人もいる、高台移転で以前の集落の住民がさまざまに混じり合うことになるが、うまくやっていきたい。そのための話し合いを早く始めたい。
- ・災害公営住宅に住む人たちが孤立しないような住まい・まちのあり方を考えたい。
- ・既存の集落に集会所がない場合、新しく移転してきた人と一緒に集会所を使得るような作り方をしてもらいたい。

Q9.今までの暮らしをできるだけ継続できる様にしたい。そのための計画的な工夫について住民の意見を聞きながら進めてほしい。

- ・今までやってきたので、高台に畑がほしい。
- ・今まで一緒にいたペットは、家族の一員として災害公営住宅でも一緒に入居できるように進めてほしい。
- ・戸建て住宅では、昔のようにブロック塀で囲わず、近隣づきあいが緩やかにできるように生け垣などのやわらかいものにしたい。
- ・災害公営住宅でも、親戚が来て泊まってもらえるように、ゲストルームのように利用できるスペースなどを共用で持てると良い。
- ・人口は一時的に減るだろうが、ゆっくりとしたペースでも魅力のあるまちができていくなら、人は戻ってくと思う。
- ・外に出ている人が戻ってくるきっかけを作っていないといけない。

Q10.住民の話し合いにコーディネーターがほしい。

- ・住民一人一人の意見は様々なので、高台毎に話し合いの機会を持ちたい。
- ・自分たちで勉強会をして、情報を得て、話し合いをすることが大切。
- ・アンケートで「希望を聞く」と言っても、みんな迷っているので、直接話し合いする場を作った方が良い。
- ・住民だけ、あるいは役場の人と住民だけだと、いがみ合いや、要求型になることが多いので、そのようにならないためにコーディネーターがいるといい。

Q11.今回のアンケートは、誰に配布されますか。まだ悩んでいて決められない人、世帯主以外にも知らせてほしい。

- ・事前に、誰に配布されるどんなアンケートなのか分からないのは困る。
- ・スケジュールなどが分からず、住民は風評に悩んでいる。アンケートの締め切り後でも、悩んでいる人こそ対応してほしい。
- ・世帯主だけに案内を送ると、他の同居家族には何の情報も伝わらないので、志津川まちづくり協議会の会員全ての方に知らせてほしい。

発行日：2013年7月27日
発行：NPO法人コレクティブハウジング社(CHC)
〒171-0031 東京都豊島区目白3-4-5
アビタメジロ302
電話：03-5906-5340／メール：info@chc.or.jp
執筆・編集
[CHC南三陸町支援チーム]
大橋徹平、狩野三枝、川上英里、マーレン・ゴツィック、渡邊喜代美
[協力] 塩崎由人、色田彩恵

■CHCでは、以下の助成金によりこの活動を推進しています。

平成25年度 独立行政法人 福祉医療機構助成 社会福祉振興助成事業
助成事業名：復興へのまち・コミュニティ創再生支援事業



このニュースレターでは、
様々な仮設住宅やまちで南三陸町の方々が取り組まれている
元気の出る活動を紹介し、
これからの暮らしづくり・まちづくりに向けて、
皆さんがこのまちで大切にしていきたいと思っていることを
私たちなりに発見し、綴りたいと思っています。

発行元：NPO 法人コレクティブハウジング社(略称：CHC)

■西地区の高台移転のまちづくりについて考えよう

今まで出されている「新しいまち」を計画するに当たって大切にしたいこととして、
このような意見が出されています。

【災害から学んだことを計画に活かす】

- ・避難計画について議論していることを、計画に反映する。
- ・避難するプログラムも一緒に考えて、高台の位置・配置やそこへのアプローチなどを計画する必要がある。
- ・障害者や認知症の高齢者などへのバリアフリーの配慮ができていない。多様な世代、障害考えた公共施設、集会所(コモン)づくりをしたい。
- ・非常時の避難先になる場所という考え方も含めておく。

【地域の底力を多世代で支える】

- ・被災後の仮設のコミュニティに学んだ若者を核に、今後のまちの運営の担い手に生かす。

【自分たちがどう暮らしたいか～ソフトからハードへ】

- ・これまでのコミュニティと仮設で育まれた新しいコミュニティが共に良い関係となるまちづくりをしたい。
- ・地域の核となる“コモン”(ゆいの場とでも言いましょうか)としての集会所という認識を持ちたい。
- ・多機能型の住居(コレクティブハウス、一般公営、福祉系施設、保育園など)との合築を考えてみる。
- ・住宅地に作りたい小さな商業系、学生の居場所やあさひ幼稚園などの施設形成の可能性を探る。
- ・地区レベルで、今まで自然にやっていた高齢者の見守りなどを「新しいまち」でも活かせるように、震災後の新しい仕組みを見直し、発展させたい。

上記のような意見を元に、今後も、西地区の高台移転のまちについて、考えていく場を設けていこうという話になっています。

■自力再建か災害公営住宅か？

その前に、災害公営住宅への移転の意向調査アンケートについて、どのように考えたらよいか悩んでいらっしゃる方も多いようでしたので、まずは、個々で自力建設か災害公営住宅か等を選択するために、下記の様な勉強会を行い、意見交換する中で出された疑問点を町役場への質問としてまとめました。

テーマ：災害公営住宅の住まい・暮らしについて考えよう

○災害公営住宅の住まいって、どんなもの？

- ＞一般的な公営住宅との違い
- ＞桜沢や名足の事例を知ろう。
- ＞西地区の公営住宅の立地上の特徴は？

○災害公営住宅での暮らしを想像してみよう1

- ＞こんな事が心配



高台移転後の暮らしについて考えるために住民有志で勉強会を開催し、高台のまちや住まいのあり方について勉強する中で、役所からの情報を正しく把握しないうちに、噂であきらめたり悩んだりということも多いことが分かりました。個々で自力建設か災害公営住宅か等を選択するために、公表されている情報を正しく理解し、分からないことがあれば直接町に聞いてみるのが大切です。しかし、いきなり窓口を訪ねていくのはハードルが高い、という声もあり、住民同士で情報交換する場を設けました。。

Q1.戸建再建か災害公営住宅か、選択できずに悩んでいます。自力建設、災害公営、他地区の情報を知らせて下さい。

- ・自立建設を目指してきたが、災害公営住宅に住みたい人が多くなっている現場がある。
- ・高台に移転する頃は、子どもが家を出ている可能性もある。そう考えると夫婦二人だけで戸建てを建てる必要があるか悩んでいる。
- ・戸建てか災害公営か悩んでいるが、以前のアンケートで戸建てと答えているので、災害公営の情報が来ない。災害公営の情報もほしい。
- ・他地区の情報は全く入ってこない。他地区の情報も知りたい。
- ・購入するにも土地の値段が分からない。どこに尋ねればよいか？
- ・土地を所有していたり持ち家の人は補償があるが、元々賃貸住まいなので自力建設のための元手がなく、不安である。
- ・災害公営住宅の家賃の計算方法が分からない。自力建設で借入が起こせるか分からない中、災害公営の入居も検討したいので、家賃が知りたい。
- ・宮城県災害公営住宅整備指針には、公営住宅の払い下げについて書かれているが、各地区における戸建て公営数と5年後の入居者への払い下げについて知りたい。

Q2.災害公営住宅の家賃算定のために、政令月収の計算が誰でもできるように分かりやすく教えて下さい。

- ・控除対象の明細が知りたい。公表されている表だけでは分からない。
- ・入居時期によって控除の内容が変わってくるが、どう考えるたらよいか。
- ・控除の条件の更新は毎年か？
- ・控除対象の組み合わせで、控除費用が足しあわされるのか？

Q3.木造災害公営住宅の家賃がどの程度割高になるかを教えて下さい。

- ・南三陸町のHPで、災害公営住宅の家賃の目安が出されているが、木造災害公営住宅(戸建型、長屋型)の家賃は標記の表より割高となる予定とのこと。どの程度割高になるか知りたい。

Q4.自力再建の補助はいつまで続きますか？

- ・「消費税増税の控除」「自力建設の利子補給」「浄化槽やソーラー設置補助」「地場散財を利用した場合の建設費補助」などは、いつまで続くか。
- ・災害支援金がいつまでもらえるのか？高台移転計画がまだ定まっていないのに期限が切られては困る。

Q5.高台移転に関する総合的な公的相談窓口の設置を望んでいます。

- ・戸建再建か災害公営か迷っている段階で、銀行に戸建再建の借入の相談をすることは難しいため、相談できる場がほしい。
- ・日中は仕事で相談に行けないので、夜間の相談窓口がほしい。
- ・急いだ方が安いと言われるので、ハウスメーカーの売り込みに負けそう。自分に見合った選択をするために、住宅メーカー以外に公的な相談窓口がほしい。

Q6.家族の変化で世帯分離をして高台移転をしたい場合、どのようにすればよいですか。

- ・被災後、時が経つにつれて家族の形も変わってくるため、世帯分離する必要が出てくる。世帯分離して高台移転できるようにしてほしい。

Q7.高齢の家族や近隣のお年寄りのことが心配です。住み方・住まいの形を選択できるように、災害公営住宅の作り方を工夫して下さい。

- ・災害公営住宅の一部を自助共助型共同住宅としコモンスペースを設け、日常的に住民が交流を誂れるようにしたい。
- ・年齢を重ねた後には選べるものとして、宮城県災害公営住宅整備指針にあるように、コレクティブハウスのような住まいも選択肢の一つとしてあってほしい。
- ・このような自助共助型共同住宅の住まいを希望する人がどれほどいるか、住民の意見交換の場がほしい。
- ・自分には高齢で認知症の親がいる。被災前は、両隣の方や近所の方もいたので、母を1人にしていても心配なかった。仮設住宅でもまわりの人が声をかけてくれたり仮設の廊下でおしゃべりしたりしているが、今後、周りの助けもなく災害公営住宅で一人で支えることになったら仕事ができなくなってしまう。以前の集落のようなお互いを助け合えるような関係を作れるような暮らしが災害公営住宅でも必要である。
- ・戸建てを希望している人の中には、周りからみると1人暮らしでは心配だと思う高齢がいる。
- ・一人暮らしの高齢者を支援できる場があると良い。
- ・石巻の日赤病院までは、南三陸町から1時間近くかかる。だからお年寄りにはちょっと具合が悪いという段階で救急車を呼ぶようにしている。
- ・被災していないところでも、お年寄りのいる家はある。そういう人にも利用してもらえるような場所が各高台に点在していると良いが、そのようなことは計画されているか。